



NISSAY
ASSET MANAGEMENT

<購入・換金手数料なし> ニッセイ外国債券インデックスファンド

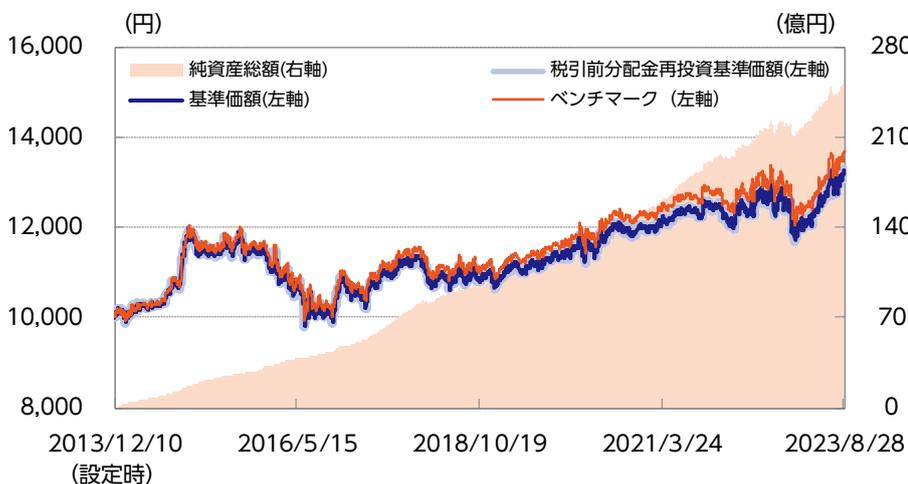
追加型投信／海外／債券／インデックス型

マンスリーレポート

2023年8月末現在

運用実績

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	13,273円
前月末比	356円
純資産総額	252億円

分配の推移（1万口当り、税引前）

第3期	2016年11月	0円
第4期	2017年11月	0円
第5期	2018年11月	0円
第6期	2019年11月	0円
第7期	2020年11月	0円
第8期	2021年11月	0円
第9期	2022年11月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率（税引前分配金再投資）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	2.8%	4.6%	9.3%	5.3%	11.2%	32.7%
ベンチマーク	2.8%	4.5%	9.4%	5.5%	11.9%	36.8%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります（個人受益者の場合）。

※ファンド騰落率は分配金（税引前）を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

※ベンチマークはFTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）としています。FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）は設定日前日の終値を起点として指数化しています。

※FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。なお、「円換算ベース」とは同インデックスをもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

マザーファンドの状況

ポートフォリオ情報

平均格付	※1	AA
平均修正デュレーション	※2	6.52年
平均最終利回り	※3	4.02%
平均クーポン	※4	2.26%
平均直利	※5	2.42%
銘柄数		810

※1 格付は、ムーディーズ、S & Pのうち、上位の格付を採用しております。以下同じです。

また平均格付とは、マザーファンドが組み入れている債券にかかる格付を加重平均したものであり、当ファンドにかかる格付ではありません。

※2「デュレーション」=債券投資におけるリスク度合いを表す指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表し、デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。

※3「最終利回り」=満期までの保有を前提とすると、債券の購入日から償還日までに入ってくる受取利息や償還差損益(額面と購入価額の差)等の合計額が投資元本に対して1年当りどれくらいになるかを表す指標です。

※4「クーポン」=額面金額に対する単年の利息の割合を表します。

※5「平均直利」=平均クーポン÷平均時価単価

組入比率

債券	98.9%
現金、その他	1.1%

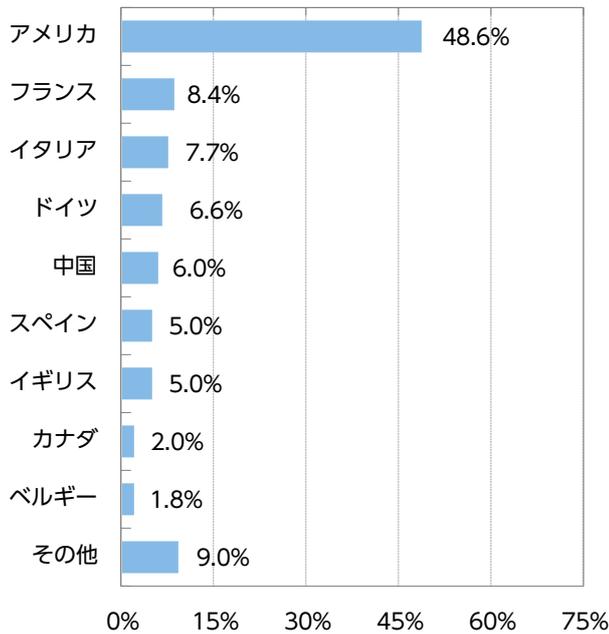
※対純資産総額比

残存年数別構成比率

短期（3年未満）	29.9%
中期（3年以上7年未満）	33.7%
長期（7年以上10年未満）	13.4%
超長期（10年以上）	23.0%

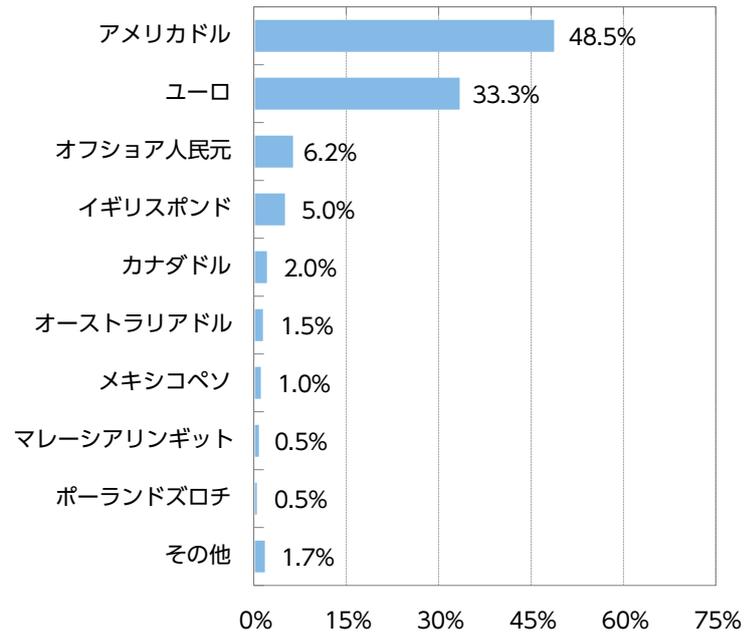
※対組入債券評価額比

国・地域別組入比率



※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。
※対組入債券評価額比

通貨別構成比率



※対純資産総額比

組入上位10銘柄

	銘柄	通貨	償還日	クーポン	格付	比率
1	アメリカ国債	アメリカドル	2024/11/15	2.250%	AAA	1.8%
2	アメリカ国債	アメリカドル	2025/05/15	2.125%	AAA	1.7%
3	アメリカ国債	アメリカドル	2025/02/15	2.000%	AAA	1.7%
4	アメリカ国債	アメリカドル	2025/11/15	2.250%	AAA	1.4%
5	アメリカ国債	アメリカドル	2026/02/15	1.625%	AAA	1.4%
6	アメリカ国債	アメリカドル	2026/05/15	1.625%	AAA	1.3%
7	アメリカ国債	アメリカドル	2027/11/15	2.250%	AAA	1.2%
8	アメリカ国債	アメリカドル	2028/05/15	2.875%	AAA	1.2%
9	アメリカ国債	アメリカドル	2028/02/15	2.750%	AAA	1.2%
10	アメリカ国債	アメリカドル	2025/08/15	2.000%	AAA	1.1%

※対組入債券評価額比

当月の市況動向

当月の米長期金利は、前月から上昇しました。初旬は、米財務省が発表した四半期定例入札計画の国債発行額が市場予想を上振れ、需給悪化懸念などを背景に金利は上昇（債券価格は下落）しました。その後、米雇用統計が市場予想を下回ったことなどをを受けて金利は一時上昇幅を縮小したものの、底堅い経済指標を背景に将来の利下げ時期が後ずれするとの思惑から、金利は大きく上昇しました。下旬は、ジャクソンホール会議でのパウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長の発言に注目が集まりましたが、市場が警戒したほど金融引き締めに積極的な内容ではなかったことから金利への影響は限定的なものとなりました。月末にかけて、米民間雇用サービス会社ADPの全米雇用リポート等の経済指標が市場予想を下回ったことなどから金利は低下（債券価格は上昇）基調に転じたものの、月を通じてみると前月から上昇して着地となり、月末時点では4.11%となりました。

当月の欧州（独）長期金利は、前月から小幅に低下しました。上旬は、米金利の上昇に追随して欧州長期金利も上昇基調で推移しましたが、弱いドイツ貿易統計などの発表を背景とした中国景気に対する懸念の高まりなどから、欧州長期金利は一時前月末比で低下に転じました。中旬は、景気の先行きに対する楽観な見方が広がり金利上昇が勢いづく米金利に追随する形で欧州長期金利も上昇しましたが、下旬には、域内のサービス業購買担当者景気指数（PMI）が好不況の分かれ目となる50を割り込み、景気の先行き懸念が強まったことなどで金利は大きく低下しました。その後、ジャクソンホール会議でのラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁の発言は特段のサプライズがなかったことから金利への影響は限定的なものとなりました。月を通じてみると金利は前月から小幅に低下して着地となり、月末時点では2.47%となりました。

当月の米ドル・円相場は、前月から上昇しました。上旬は、米国経済に対する楽観的な見方が強まり、米金利が大きく上昇する中、米ドル・円は上昇基調で推移しました。中旬は、米小売売上高などの経済指標が上振れたことなどで米ドル・円の上昇が続きましたが、昨年の為替介入時の水準を超えて円安が進むと、米ドルの上昇は一服しました。下旬は、ジャクソンホール会議での植田日銀総裁の金融緩和に前向きな内容の発言が円安要因となりましたが、米民間雇用サービス会社ADPの全米雇用リポートなどの経済指標が弱かったことなども相まって、米ドル・円は振れを伴いながらおおむね横ばいで推移しました。米ドル・円相場は月末時点で146.20円（東京市場）と、前月末比5.23円の米ドル高・円安となりました。

当月のユーロ・円相場は、前月から上昇しました。上旬は、中国景気に対する懸念が高まる中、投資家のリスク回避的な動きから欧州長期金利が低下し、ユーロ・円は下落しました。中旬は、欧州長期金利が米金利に追随して上昇基調に転じる中でユーロ・円も上昇しましたが、その後、日本当局からの為替介入が警戒され、円安基調は一服しました。下旬は、欧州域内のサービス業PMIが好不況の分かれ目となる50を割り込み、景気の先行き懸念が高まったことなどで、ユーロ・円は下落しましたが、月末にかけて、ジャクソンホール会議での植田日銀総裁の金融緩和に前向きな内容の発言が円安要因となり、ユーロ・円は再度上昇しました。ユーロ・円相場は月末時点で159.84円（東京市場）と、前月末比4.49円のユーロ高・円安となりました。

ファンドの特色

- ①日本を除く主要国の国債に投資することにより、F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）に連動する投資成果をめざします。
- ②購入時および換金時の手数料は無料です。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。また、F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）の動きに連動することを目標に運用しますので、F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）の動きにより基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。**

主な変動要因

債券投資 リスク	金利変動 リスク	金利は、景気や経済の状況等の影響を受け変動し、それにともない債券価格も変動します。一般に金利が上昇した場合には、債券の価格が下落します。
	信用リスク	債券の発行体が財政難・経営不振、資金繰り悪化等に陥り、債券の利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる場合（債務不履行）、またはそれが予想される場合、債券の価格が下落することがあります。
為替変動リスク		原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
カントリーリスク		外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。
流動性リスク		市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予想される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

❗ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。
これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。
	申込不可日	ロンドンの銀行、ニューヨークの銀行のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金の申込みの受け付けを行いません。
決算・分配	決算日	11月20日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	無期限（設定日：2013年12月10日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 税法上、少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の対象です。2024年1月1日の税法の改正により、以降はNISA（成長投資枠（特定非課税管理勘定））の対象となります。 詳しくは、販売会社にお問合せください。

! ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	ありません。
換金時	換金時手数料	ありません。
	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に 年率0.154% (税抜0.14%) 以内の率をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.0011% (税抜0.001%) をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
随時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

- ! 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ! 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- ・少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方となります。ただし、2024年1月1日の税法の改正により、以降は一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。対象は税法上の要件を満たしたファンドを購入した場合に限られ、当ファンドは2024年1月1日以降、NISA（成長投資枠（特定非課税管理勘定））の対象となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。
- ・外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- ・法人の場合は上記とは異なります。
- ・確定拠出年金法に基づく運用として購入する加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用され、また少額投資非課税制度および外国税額控除の適用対象外です。
- ・税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00~17:00（土日祝日・年末年始を除く）
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	ホームページ https://www.nam.co.jp/
三菱UFJ信託銀行株式会社	

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のもとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合があります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	取扱販売会社名	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
	金融商品取引業者							金融商品取引業者					
岩井コスモ証券株式会社	○	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○		株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	○	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
auカブコム証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○		株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	○	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI証券	○	関東財務局長(金商)第44号	○		○		株式会社京都銀行	○	近畿財務局長(登金)第10号	○		○	
岡三証券株式会社(※1,※2)	○	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○		株式会社三十三銀行	○	東海財務局長(登金)第16号	○			
GMOクリック証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第77号	○		○		ソニー銀行株式会社	○	関東財務局長(登金)第578号	○		○	○
Jトラストグローバル証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第35号	○				株式会社千葉銀行(※2)	○	関東財務局長(登金)第39号	○		○	
株式会社証券ジャパン	○	関東財務局長(金商)第170号	○	○			PayPay銀行株式会社	○	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
東海東京証券株式会社(※3)	○	東海財務局長(金商)第140号	○		○		株式会社三菱UFJ銀行(※2)	○	関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
フィデリティ証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第152号	○	○			足利小山信用金庫	○	関東財務局長(登金)第217号				
ほくほくTT証券株式会社	○	北陸財務局長(金商)第24号	○				多摩信用金庫	○	関東財務局長(登金)第169号	○			
松井証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第164号	○		○		豊川信用金庫	○	東海財務局長(登金)第54号				
マネックス証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○								
楽天証券株式会社	○	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○								

(※1)一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

(※2)インターネットのみのお取扱いとなります。

(※3)一般社団法人日本STO協会にも加入しております。